

第12回 大阪府財務マネジメント委員会 議事概要

- 1 日 時： 平成29年7月31日（月）午後1時30分～午後3時30分
- 2 場 所： 東京八重洲ホール7階 701会議室
- 3 出席者： 石井会長、今井委員、江夏委員、大崎委員、河村委員、竹田委員、玉岡委員、波多野委員、浜田委員、百留委員、八嶋委員

4 議 題

- (1) 会長の選任について
- (2) 平成29年度大阪府債下半期発行計画（案）
- (3) その他

5 主な議事概要

○冒頭、委員の互選により、石井委員が会長に選任されました。

○議題（2）及び（3）に関して、資料1「大阪府財務マネジメント委員会設置要綱」、資料2「直近の大阪府債の状況等について」、資料3-1「平成29年度大阪府債下半期発行計画（案）」、資料3-2「大阪府債の発行状況及び各種指標について（民間資金）」、資料4「資金運用の実施状況について」及び資料5「財投機関債の購入について」に基づき事務局説明後、各委員による意見交換及び質疑が行われました。委員の主な発言は以下のとおりです。

《平成29年度大阪府債発行計画（案）》

・現状の低金利の金利環境を享受するためには超長期を増やすのが良い。中でも、一番ニーズのある20年満期一括や30年定時償還で、この低金利のメリットを十分に活かすべきであり、下半期の発行計画（案）は理にかなっている。

・10年債を減らす時期については、10月から12月に固定するというよりは、変化する市場の動向を見ながら柔軟に対応していくのも一考ではないか。

・10年債を減らすという判断の後ろには、当面のコスト低下のメリットを取り、リファイナンスのリスクは考えないという意味もあるということは、認識しておくべき。

・カーブの形状を考えると、中期までの年限と超長期を増やすことによって、平均年限を伸ばしながら平均調達利回りを下げることができるので、有利な調達ができる。

《その他》

・財投機関債は、年度の予算はあるが、発行年限や起債ごとの発行額は発行体に任されており、オーダーによっては増額も可能なので、地方債の何倍も確保しやすい商品だと思う。

・初めて財投機関債を購入するので、入口としてはこれで良いと思う。ただ、これまでも、投資家需要が殺到して、買いたくても買えない局面もあったので、将来的には、可能な範囲で投資対象あるいは投資対象年限を広げていくのが望ましいと思う。実際、地方公共団体の中でも、高速道路会社債までは買うところが結構増えている。

・財投機関債の購入に関して、資料5は非常に丁寧に精査されていて、良い内容だと思う。ただ、実際にこれを運用してみてどうだったのか、使い勝手の良いものなのかなどについては、今後の財務マネジメント委員会で検証した方が良いと思う。

・低金利の環境が続く中で、運用可能な資金量は増加傾向にあるので、今後、どのように対応していくのかを検討していくことが非常に大切である。

以上